

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770106918		
法人名	医療法人 錦秀会		
事業所名	グループホーム清泉 (桜)		
所在地	大阪府堺市南区豊田1748-2		
自己評価作成日	平成25年10月18日	評価結果市町村受理日	平成25年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①母体の医療法人と連携を取り、医療・福祉サービスを総合的に提供しています。 ②職員のスキルアップのを図るように、法人内・事業所内研修を定期的に行っています。 ③ISO9001の認証を受け、サービスの質の向上に努めています。 ④ゆったりとした敷地内に2棟の平屋建てで、中庭を設け、居室にも十分に光が入り、四季折々の風景を眺めることができます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設から9年の実績の振り返りと、それを踏まえた「これから」に意欲を持っている。 ISO認証によるマネジメントのひとつ、計画・実行・評価・改善 を組織にも職員個々人にも適用し、月毎の成果を年度へ、将来へ活かそうとする取り組みに期待するものがある。職員の資質向上は定着率の向上ともなり、利用者・家族・地域にとって大きな安心と信頼の基となるであろう。 オムツを使用しないとする排泄自立支援への姿勢は、利用者の基本的な人権＝高齢者の尊厳の守護に関ることとして、将来的にも繋いで欲しいと、職員各位の努力と健闘に期待するものである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・GH理念に基づき、毎月目標を掲げ、その評価を行い、職員一同共有して取り組んでいます。	法人理念の中一つ、地域社会への貢献を活かした当事業所の理念を掲げ、日々のケアの拠り所として実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの受入れ、登校の見守り隊、近隣保育所との交流に積極的に取り組んでいます。	月に1～2回、朝7時45分～8時15分の間に利用者2名と職員2名で事業所近くの通学路で地元の人と見守りをしている。併設保育園お園児との嬉しい交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の入居相談や、介護相談は随時対応しています。区内のGH事業所と連携し、地域住民に向けての認知症啓発活動を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議の案内状は入居様家族全員に送り、自治会、有識者・地域包括も参加して頂いています。その中で多くの意見を伺い、日々のサービスに反映するよう取り組んでいます。	開催期は順当である。顧問である法人看護部長の参加がある。出席者が少数で固定され、議案の内容に幅の広がりが無い。	地域密着の意義を再度確認し、議題の幅を広げる為、構成員の拡充に工夫と努力を求め、家族への議事録報告をされてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	南区GH連絡会を定期的に開催している。行政とも意見交換を行い、相互に協力関係を築くよう取り組んでいます。	必要な業務指導の要請、情報の収集(入居待機者状況・各種研修他)、事務連絡等良好な関係を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っていない。GH内で勉強会や研修を行い、身体拘束のないケアに取り組んでいます。	心・身体、ともに拘束の弊害を理解し、研修を重ねて日々のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で対策委員会が設置され、虐待防止マニュアルが整備されている。GH内でも研修を行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員による、伝達研修を行っている。法人内のMSWと連携を図り、必要な人には活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時には、運営推進会議で説明・不参可の家族には書面を送り了解を得ている。疑問があればいつでも説明するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には出来るだけ多くの家族様に出席して頂けるようにしている。日頃より、家族との関わりを持ちながら、話しやすい雰囲気を取り組んでいる。	比較的に面会頻度の高い家族が多く、面談の機会を積極的ににつくって、意見・要望を聞くよう心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より意見や提案を聞き、法人参加の運営会議に意見を出し、意見を反映させている。	申し送り、ミーティングなどでの意見は3ヶ月に1回の法人合同の会議に反映されている。実行・実現に時間を要するものもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理制度に基づき、向上心を持って働ける、やりがいのある職場環境を提供している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立て、法人内外の研修を積極的に受けるようにしている。研修後は、伝達講習や、資料の回覧を行い、周知徹底出切る様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	堺市全体と南区内の事業所連絡会を定期的に関催。ネットワークを作り、必要な情報を提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、利用者の自宅に伺ったり、事業所に来て頂いて、できるだけ会う機会を作り馴染みの関係ができる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までに出きるだけ連絡を取り、準備の支援や、不安なことがないか、聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて必要なサービスの情報提供したり、他のサービス事業者への連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で本人ができる事を見つけ、役割を持って頂き、職員が共同で行う事が出来る様な関係を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様へ積極的に行事に参加して頂けるよう声かけ、手伝っていただける事はお願いしている。入居者様・家族様・職員と一緒に時間を過ごせるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力を得ながら、家族以外の面会や馴染みの場所への外出を支援している。	昔日の馴染みが薄れつつある中で、新旧の利用者同士や職員との新しい馴染みも大事につくりたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が環境設定や声かけを行う事で、掃除・洗濯干し・レクリエーションなど、入居様同士が関わりを持ちながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、病院やサービス事業者と連携を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦や家族から情報収集、日々の生活の中での会話やしぐさ、習慣の中から得た情報を、家族様と一緒に相談しながらケアに反映している。	センター方式での再検討を行い、各受け持ち担当者を中心に日々の気づきを疎かにしない、共有するなかで家族の気づきも参考にし、できること・やりたいことの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族様から生活暦や暮らしぶりをお伺いし、利用していたサービス事業者や担当介護支援専門員から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりに担当を決め、介護支援専門員と共に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当介護士と介護支援専門員を中心に、介護計画の作成と、毎月モニタリングを行い、職員間で話合うようにしている。	日々の申し送りや記録、担当者による月1のモニタリング、終業時のミニカンファなどにより定時もしくは随時に作成と見直しを行い、職員間での確認と共有を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様個別の記録や申し送りで情報を共有し、モニタリングチャートを定期的に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や(歯科・眼科・内科)、入院の付き添いを行い、迅速に対応している。入居様主体にサービス出来る様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園・幼稚園児との交流・地域ボランティアを受け入れ、積極的に本人の心身の力が発揮出来る様取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族様の希望する医療機関で受診できるように配慮している。医療連携を強化し、入居様・家族様が健康面で安心できるように迅速に対応している。	医師と看護師による週1回ずつ交代での往診がある。専科(眼・歯・骨)は法人医療機関が対応している。医療連携体制による利用者と家族の安心感は強いものがある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師訪問時に様子を伝え、介護上の注意点などを聞き相談している。体調の変化があれば、すぐに報告し必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたらサマリーを作成し情報提供している。入院先と連携を図り、カンファレンスに参加し、現情の把握・早期退院に向けて往診医とも相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合や終末期のあり方について説明し、希望を伺い、かかりつけ医や病院と連携を図りながら、出来るだけ希望に沿えるように努めている。	経営母体が医療法人である関係で看取りの経験はない。看取り介護加算を踏まえ、ホームでの看取り希望が多くなることを想定した具体的な指針づくりと、職員教育にも取り組みたいとしている。	開所して10年を迎え、利用者の重度化は避けられず、ホームでの看取り希望は必ず出てくると考えられる。医療系からの管理者の下での対策と実行に期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え研修を行い、マニュアルを作成している。AEDの研修を受け、実践力が身につくように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を昼夜想定を変えて、年2回行っている。スプリンクラーを設置し災害対策を行っている。	規定の訓練は行われているが、課題とされる地域との協力体制づくりには至っていない。地域推進会議で消防署を交えて防災対策についての研修を行った経緯はある。	想定するあらゆる災害への備えも含んだ、地域との協力体制づくり、避難路・避難場所と位置の確認に加え、複数回の防災・避難訓練の実施を望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的マナーのチェックを年2回行い、面接にて指導している。法人の接遇研修に全員参加し、マナーの向上に努めている。	生活歴や職歴などに配慮した言葉使い、自尊心を傷つけない環境への気配りなど、基本的な接遇研修を行い全職員の意識向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を出来るだけ聴くようにし、意思確認に努めている。意思表示が困難な入居様には、表情や行動で理解するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居様一人ひとりのペースに合わせて、支援できるように、職員間で話し合い日々取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を出来るだけ自分で選んで頂けるようにしている。毎朝、鏡の前で整髪・髭剃りなど、職員と一緒にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・下膳・食器洗い・テーブル拭きなど、職員と一緒にしている。行事の時などは季節感を味わってもらう様、工夫して楽しんで頂いている。	チルドフードを利用、ご飯と汁物は当所で調理している。職員も一緒に食し、介助を適切に行っている。出前、外食、手作りおやつなど、季節・行事に合わせた楽しみにも工夫し努力している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるメニュー作成。嚥下・咀嚼困難な入居様へはソフト食などを提供している。一日の食事量・水分摂取量を毎日記録し、健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後のうがいを徹底して行い、口腔内の清潔保持に努めている。法人の歯科衛生士と連携を図り、口腔ケアの指導・相談・年2回の健康教室と口腔内検診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本オムツ使用はしない方針である。排泄時間を記録し日中は適宜トイレまで誘導を行い、自然排泄を試みている。個人にあった自立支援を行っている。	リハパンツにパットのスタイルはあるが、重度者へのオムツ使用以外はこれを良しとせず、排泄の自立支援へ向けての努力が継続されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便時間を把握して、トイレでの排便習慣を心がけている。下剤や浣腸に頼らず、オリゴ糖の飲料で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週2日～3日入浴されている。必要に応じて日中はいつでもシャワーできるようにして、清潔保持に努めている。	重度者への2人介助や風呂嫌いの人への対応など、清潔保持を重視しつつお風呂を楽しむ工夫にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居様のペースに合わせて休息したり、眠れるように努めている。特に就寝時間や起床時間は決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日処方箋と照らし合わせて、服薬準備しその用法や副作用を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を生かし、出来る事を見つけ役割をもって頂いている。気分転換に適宜散歩を取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	GHの周辺・屋外の花壇・中庭へはいつでも出入りできるようになっており、日常的に散歩できるように支援している。外出は自由にして頂いている。	時候・天候・体調などにあわせて周辺の散歩コースを楽しむ他、面会時の家族による散歩・外出がある。四季の変化が楽しめる中庭の利用は、重度者の支援にも最適であろう。年に1度のバスでの遠足の写真には笑顔がいっぱいある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望すれば、家族と相談しお金を所持して頂いている。訪問販売や売店で買い物が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	往復はがきを使用し家族との通信を支援している。公衆電話の設置や電話の取り次ぎはいつでも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広くゆとりのある間取りで、光がよく入り、季節感を感じることが出来る。中庭に洗濯物や布団を職員と一緒に干すことが出来る。	中庭を囲んだゆとりある構造のリビングは、築10年の落ち着いた雰囲気と過度な装飾が無く、行き届いた清掃での居心地の良さが、利用者のおだやかな表情に見て取れる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは共有のテレビやソファを置き、入居様同士で過ごせる場所と、1人で過ごせるような場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで使い慣れた物や好みの物を持ってきて頂き、居心地よく過ごせるよう支援している。	個人の好みや家族の配慮が活かされた、それぞれの居心地の良さを感じる居室風景である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの壁と居室の扉を色分けしている。居室の表札や目印は、入居様家族様に自由に付けて頂き、認識しやすいように工夫している。		